

馬、故園今若何」の句が、また杜甫の「愁興詩」に「叢菊兩開侘日淚、孤舟一繫故園心」の句が見える。

『漢語大詞典』では、「旧家園。故郷」と説明し、駱賓王の「晚憩田家詩」の「唯有寒潭菊、獨似

故園花」の句、および貫休の「淮上逢故人詩」に「故園離亂後、十載始逢君」の句を引く。

『菅家文章』には「293 端午日賦艾人」に、「有時當戸危身立、無意故園信脚行」の句が見える。↓

補説②

○來 …… 到る。帰る。（『漢語林』）



補説①

○145 句目「山看遙縹綠」の「山」について

北に位置する 「四王寺山脈」

東に位置する 「高雄山」

南に位置する 「天拝山」

を指すと思われる。

「天拝山」は、菅公の伝説で有名な標高258メートルの山、別名「天判山」という。

山頂に祠があつて、菅公が山麓「竜王の滝」で身を清め、天拝に登つて、百日間山頂に立つて、無実を天に訴えたと伝えられている。それが竜神となつて都の悪人どもを悩ましたと言われている。そのときの石が祠にあつて、「天拝石」と称されている。かたわらには石碑がある。